はじめに

「高1高2など早い時期から入試現代文の読み方・解き方に習熟していくべきだ」「高三からスタートでは十分なベース構築の途中で入試に突入してしまう生徒も出てくる」。これは予備校で主に受験学年を対象に授業をしてきた私の実感です。入試までに読んでおくべき、外せない文章やテーマがいくつかあります。それらの理解があれば、初めて出会ったはずの文章も読みこなしていけます。そうした入試現代文のリアルなベースメントをつくりたい。そうした思いからこの講座の映像とテキストをつくりました。

入試の現代文で問われていることとは、**「言語としての日本語」**です。いいかえれば、**「書いてあることを書いてある通りに理解すること」**です。心理テストではありません。自由な作品鑑賞・解釈力でもありません。しかしながら、「書いてあることを書いてある通りに理解すること」は、ふつうに考えられているほど受動的で消極的な行為ではありません。むしろ、テクスト（文脈）以前の先入観や自分勝手な解釈を排して、文脈の中で著者の見解を正しく追うという**能動的で積極的な知的行為**なのです。いいかえれば、現代文には、指導を受けて獲得するべき**「読み方」「方法」**があるということです。

しかも、その「読み方」「方法」は**論説文にも小説・物語文にも共通**したきわめて一貫したものです。それは**「対比の発見と追跡」という方法**です。くわしくは、授業で展開されます。ともあれ、ここで強調したいことは、みなさんが受講しようとしているこの現代文授業は、**「方法の現代文」**だということです。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。**赤／青／緑**（黒板では緑ですが、第三の色であれば何色でもＯＫ）の**三色**をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。主役キーワードが赤、敵役キーワードが青、脇役キーワードが緑です。

解法の手順

……**文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……**

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルをみる　→　テーマが判明**することが多い。さらには、「○○と△△」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（現代文では、書名をつけることは多い。とくに共通テスト現代文では必ず記載されます！　論説では文章の終わりに、小説では冒頭に書かれるのが普通です）。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわる**ことが多い）。タイトルの次は「キャスティング＝配役＝誰が出演するのか」に注目。本編の前に「エンドロール」を見てしまう感じです。ただし**選択肢まで読んではダメ**。五択で四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。

3　**本文最後の数行をさきに**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。ドラマの最終場面、クライマックスを先に見てしまう感じ。

4　**本文を冒頭から読み**、設問の傍線部にあたるたびに、選択肢を読み、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

記述式問題解答へのガイドライン

１　**字数指定の八割以上**書くことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり０点）

２　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

３　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ１点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

４　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「〜から。」「〜ので。」「〜ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、１点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a

	人	間	は	…

↓ ※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b

…	…	…	こ	と

↓ **※句点なし！**（１点減点）

設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則

ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものは付けない）

c

…	…	…	こ	と。

↓ **※句読点は一文字分！**（１点減点）

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

○ 具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
○ 対比の表現（AではなくBである）！
○ 繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）
○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。
○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

（例）

語 ⇐ 心身
語句 ← 心身の一体性

一文・文 ⇒ 心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。

心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。この考察は、「道具」を見直す契機になる。

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1　**対比混乱の誤り**　……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2　**同一性分断の誤り**　……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗**。**同質性分断**ともいう。

3　**正しい対比喪失の誤り**　……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「Ｃ」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4　**不当な全称判断**　……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5　**不当な限定判断**　……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6　**不当な価値判断**　（不当な当為判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またＡとＢの特徴の比較をしているだけなのに、**Ａの方が優れているといった優劣をもちこんだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

7　部分的指摘の誤り ……本文中では、**「AとともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」**と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8　記述に反する誤り ……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「ＡはＢである」としているのに「ＡはＢではない」としている誤り。

9　記述なし ……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては１～８・10～12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10　文脈喪失の誤り ……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11　物理的スリカエの誤り ……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持ち」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12　比喩を文字通りに解釈した誤り ……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

予習の仕方　……必ず予習しましょう。映像講義を視聴しているだけでは、解答力は身に付きません。その上で、以下のようなプランが考えられますが、プランＣをオススメします。

プランＡ……映像授業を見る前にまず、自力で解答する
プランＢ……映像のチャプター１（タイトルと設問条件解説・最終段落先取り読み）まで見てから映像を止めて、解答する
プランＣ……第三講までプランＢで、解法の手順をしっかり学んだ後、第四講からプランＡ
プランＤ……現代文があまり得意ではない方は、第四講以降、ＡとＢを交互に繰り返す。例えば、偶数の講義ではプランＡ、奇数の講義ではプランＢというように

予習の時間　＝問題にアタックする演習時間

各講二〇分が基本です（ただし、第一講のみ予習要りません。その１その２の二本立ての講も合計で二〇分）。その他、以下のようなアレンジも可能です。パターンＣがオススメです。

パターンＡ……右の基本時間通り
パターンＢ……時間設定にとらわれず、納得いくまで解答する
パターンＣ……基本時間通りで解答する講と、じっくり納得いくまで解答する講を交互に繰り返す。時間設定を気にするあまり、読み方や解法が雑になっては元も子もありません。かといって悠長に構えすぎてもダメ。本来入試は時間限定付きですから。そこで、じっくり解く回と本番を想定した回を交互に組み合わせましょう。

目標得点

……配点はしてありませんから、その講義ごとに、全何題中いくつできたのか、という得点率（例えば第二講なら全部で九題。六題以上正解なら目標クリア。記述問題は、各「ポイント箇所」を一題と数えましょう）

○　私大………………（第一講その２・二講・四講・五講その１・七講・九講その１その２・十講・十一講・十三講その１その２・十四講）→**六五％以上**
○　国公立大…………（第五講その２・六講・十二講）→**五五％以上**
○　共通テスト（マーク式問題に相当）……（第一講その１・三講・八講）→**八〇％以上**
○　復習問題…………**八〇％以上**

復習の仕方について

予習と授業が柱ですが、復習するなら……

設問をもう一度解き直すというタイプの復習はオススメできません。 勉強したような気になるだけで、現代文の場合、発展的な学習とは言えない。文章を読み物として再読することはオススメです。なんたって良質な文章、各テーマのモデルのような文章を集めていますから。ただし、設問については授業内で疑問を解決しましょう。また解説テキストでも確認できます。一方で、現代文入試問題での読解力・解答力を向上させるためには、同じ問題を解き直すのではなく、授業をモデルとして、問題集などで新しい問題に次々チャレンジしていきましょう。スタディサプリでも多くの講座が用意されています。その文章・設問も対比で読める・解けるようにする訓練を続けることが有効です。本来、現代文の理解力に学年など関係ないのですから。

おすすめの問題集

『マーク式基礎問題集・現代文・改訂版』（河合出版）
『マーク式総合問題集・国語』（河合出版）……「全統マーク模試」を収録したもの
『はじめての共通テスト対策　国語』エデュケーショナルネットワーク編（Ｚ会）……試行調査２回分＋オリジナル２回分から成り、古文や漢文も含みます。マークシートや記述解答用紙も付属。
『Ｚ会・現代文のトレーニング』（増進会出版）……「入門編／必修編／小説編／記述編／私大編」がそれぞれあります。
『入試精選問題集７　現代文』（河合出版）……難関私大および国公立大二次向け
『ハイスコア！共通テスト攻略　国語　現代文』Ｚ会編集部（Ｚ会）……〈参考書＋問題集〉、〈マーク式＋記述式〉、〈センターの過去問題＋試行試験問題＋オリジナル〉など、それぞれの要素を盛り込んでいます。現代文のみです。
『入試現代文へのアクセス』（河合出版）……「基本編／発展編／完成編」があります。

おすすめの用語解説集

『読み解くための現代文単語』（シグマベスト・文英堂　小柴大輔　編著）

おすすめの参考書

『小柴大輔の一冊読むだけで現代文の読み方＆解き方が面白いほど身につく本』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）

教材選定について

- 有名難関大学の過去問の中から良問をセレクト
- 各テーマ（日本文化論・科学論・文学論・宗教論・芸術論など）の読書資料になる価値の高い文章をセレクト
- それぞれの学問界を代表する筆者の文章をセレクト
- 奇問は外し、入試現代文のモデルとなる設問をセレクト。アタックすることを通じて解答力を高められる設問ばかり。

目次

第一講　その１　哲学・時間論……p.11
　　　　その２　認知科学・時間論……p.12
第二講　芸術論・日本文化論……p.15
第三講　《小説１》　ビフォア・アフターの対比……p.19
第四講　スポーツ論・文化人類学……p.27
第五講　その１　《随筆》　旅論……p.33
　　　　その２　建築論……p.34
第六講　科学論・翻訳論・異文化理解論……p.40
第七講　宗教論……p.46
第八講　《小説２》　人物相互のグループ分け……p.51
第九講　その１　哲学論……p.59
　　　　その２　文学論……p.60
第十講　脳科学・コミュニケーション論……p.66
第十一講　宗教論・日本文化論……p.73
第十二講　科学論・心理論……p.79
第十三講　その１　趣味論・工芸論……p.85
　　　　　その２　現代社会論……p.88
第十四講　《随筆》　道について……p.93

第一講その１　哲学・時間論〈選択肢中心〉

われわれは平生、「時がたつ」その仕方について、どのようなイメージをもっているであろうか。われわれの日常の経験では、ひとを待つときの時間は長く感じられ、何かに夢中になっているときの時間は短く感じられる。時間の流れ方は、状況によって異なるかに見える。しかし、幼児ならともかく、多くの成人は、そうした時間の流れ方の違いはいわば**主観的**な感じ方の違いであって、本当の**客観的**時間は、主観のそのときどきの状況とは関わりなく、刻々均一に経過しつつあり、その均一さは、時代や場所の違いを越えた**絶対的**なものだ、と考えていることであろう。事実、私が何かに夢中になって、時間を短く感じているその間に、「標準時」に合わせた時計が刻々と時を刻み、それを他の人が見て退屈するということもありうるであろう。それに、どんな自然科学者や歴史学者も、仮に時代の違いによる地球の回転速度の変化について語ることがあるにしても、時間の経過それ自体が時代によってその速さを変えるといった言い方はしないと思われる。われわれの**常識的**な捉え方からすれば、時間はやはり、天上か地上かの違いには無関係に、永遠の昔から現在に至るまで全く同一の速さで流れ来り、永遠の未来に向かって流れつづけていく全宇宙的な普遍の流れなのである。

（滝浦静雄『時間—その哲学的考察—』）

問１　第一段落では、「時間」について二つの方向からのとらえ方が示されている。次に掲げる［A〜D］は、「時間」に関連して用いられている語（太字で示してある）であるが、これらを、本文に従って二つのグループに分けるとすれば、どのように分けたらよいか。最も適当なものを、次から一つ選べ。

［A　主観的　B　客観的　C　絶対的　D　常識的］

①（A・C）と（B・D）　②（A・D）と（B・C）　③（A）と（B・C・D）
④（B）と（A・C・D）　⑤（D）と（A・B・C）

第一講その２　認知科学・時間論　〈選択肢中心〉

人間は誰しも退屈することがある。もちろん、強度のある退屈は必ずしも悪いものではない。そもそも退屈は、十分な時間の余裕がなければできない。時間は、生命にとってもっとも貴重な資源である。限りある時間を限りないものと感じることができれば、それは望外の幸せ（A）である。退屈とは、［B］のようなものである。

次から次へと目新しく変わる情報がもたらされる現代社会では、むしろ退屈することが一つの才能である。一見新しく見えても、実はあまり代わり映えしないではないかとメタ（注）認知を立ち上げることが重要である。現実に存在するものとは異なる仮想の流れを思い浮かべ、希求することが創造性の一つの水脈であるとすれば、退屈はその入り口になり得る。

人生は有限である。その有限の人生の中で、無限の可能性を表象できることは、意識の持つ不思議な「志向性」の働きである。

（茂木健一郎の文章による）

（注）メタ……他の語の上に付いて「超」「高次」の意を表す。

問１　傍線部Ａ「望外の幸せ」とはどのような意味で用いられる表現か。最も適当なものを、次から選びなさい。

①　望んでも決して叶（かな）うことのない幸せ
②　望みとは比較にならない小さな幸せ
③　望めば望むほど遠ざかっていく幸せ
④　望んでいたよりも遥（はる）かに大きな幸せ
⑤　望みとは別なかたちで実現する幸せ

問２　空欄［B］に入る最も適当な表現を、次から選びなさい。

①　有限と無限を往還する航海術
②　有限を無限にする錬金術
③　有限にも無限にもなれる変身術
④　無限から有限を生む産婆術
⑤　無限も有限もない飛翔術

第一講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●その１の筆者　滝浦静雄＝たきうら　しずお（一九二七～二〇一一）東北大学哲学科卒・哲学者・東北大学名誉教授
●その２の筆者　茂木健一郎＝もぎ　けんいちろう（一九六二～）東京大学理学部と法学部卒・同大大学院理学系研究科修了・脳科学者

語句

主観的↓感覚的・感情レベル・サブスタンス（根底根幹に主体者、人がいるという感じ）
客観的↓物理的・対象的・オブジェクティブ
普遍的↓いつでもどこでも当てはまる・ユニバーサル・「遍」は訓読みで「あまね（く）」
　cf不変↓変化なし　不偏＝かたよりがない・不偏不党　遍在＝へんざい↓どこにでもある　偏在＝へんざい↓かたよった所にしかない
絶対的↓相対的の対義語で、比較を絶した圧倒的な状態。（例）絶対王政　cf「絶体絶命」は体と命のピンチ！
希求＝ききゅう↓強く願い求めること
錬金術＝れんきんじゅつ↓卑金属から貴金属を生もうとする魔術的化学・アルケミー
産婆術＝さんばじゅつ↓古代ギリシャの哲学者ソクラテスは、対話を通じて相手の青年などが勝手な思い込みを脱して真実にいたる手助けをした。そうした自らの行為を知の産婆術と呼んだ

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）絶タイ的に正しい学説などない　①対　②体　③帯　④滞　⑤耐

（イ）人類に普ヘン的に当てはまる真理だ　①偏　②遍　③変　④篇　⑤片

（ウ）王様は退クツな日々をもてあます　①窟　②掘　③堀　④屈　⑤靴

（エ）これこそ世界標ジュンの市場原理だ　①順　②純　③潤　④巡　⑤準

（オ）時間のケイ過を計ってみよう　①経　②形　③傾　④系　⑤契

（カ）前例のない芸術作品をソウ造する　①装　②想　③相　④総　⑤創

（キ）現実と違う物語を仮ソウしてみよう　①相　②層　③創　④想　⑤送

（ク）意識は強い志コウ性をもつ　①公　②向　③高　④抗　⑤考

（ケ）これは貴チョウな蝶の標本です　①徴　②兆　③重　④長　⑤超

（コ）頭の中でクリアに表ショウしてみる　①賞　②章　③省　④象　⑤翔

テキスト解答・解説

第一講その１　哲学・時間論

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

成人の常識的な時間感覚

客観的時間

時代や場所を越えた**絶対的な時間**

刻々均一な時計の時間

同一の速さ

全宇宙的な**普遍的な時間の流れ**

対比

比較相手

日常の経験（長く感じられたり
短く感じられたりする）

幼児の時間感覚

主観的な感じ方の違い

《解説》

さあ、みなさん高１・高２現代文講座の始まりです。文章というものは、論説・評論も小説も対比・比較で書かれており、また、入試問題の設問もそこを問うてきます。「この文章の対比がわかりましたか」「比較を通して筆者はなにを強調したかったのかがわかりましたか」と聞いてきます。入試の現代文で大事なことはこれに尽きます。したがって、この講座も、みなさんが文章を対比・比較に注目して読めるように、そこから筆者のメインメッセージがなにか理解できるように、その理解によって入試突破の十分な得点を獲得できるように、進めていきます。

問１《キーワード分類》

「二つの方向からのとらえ方」「二つのグループ」というようにズバリ対比で読み、分類することを求めていますよ。すなわち、〈筆者がおススメのキーワード⟷比較相手のキーワード〉に分けられます。筆者オススメのキーワードは「しかし」という逆接（何らかの前フリを乗り越えていく表現）のあと、「本当の**客観的**時間」として示されます。「本当」とあるから、こっちが大事とわかります。それと対置される比較相手が「**主観的**な感じ方」です。なお、この文章が優れているのは、仮に読者が「主観的」ということばの意味を知らなくても「感じられる」「感じ方」つまり感情や気分のことだとわかるようになっている点です。同様に「客観的」のほうも「時計」で測れる物理的物体的なものと了解されます。対比と言い換えの連鎖！　これこそ、よい文章のモデルです。みなさんが小論文などで文章を書くときにも見習いたいところです。以下、時間は、そのときどきの状況や気分で変わるような相対的なものではなく、「**絶対的**」なもので、「成人」の「**常識的**」な捉え方と説明されます。したがって、〈主観的⟷客観的・絶対的・常識的〉の分類で③となります。この他「成人⟷幼児」「違い⟷均一」など、はしばしに対比が効いています。

模範解答
問１＝③

第一講その２　認知科学・時間論

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

退屈＝限りある時間を限りないもの、
有限を無限に変える錬金術

メタ認知・無限の可能性を表象
仮想・創造性・志向性

対比

比較相手

現代社会＝目新しく情報が
もたらされる

有限の人生・現実

《解説》

問１《傍線部説明・語句の知識》

まず語句の知識として「望外の幸せ」は、〝当初の望み以上の大きな幸福〟を意味しますが、文脈からも行けます。というより、本来文脈上の意味が大切です。辞書的な意味とは違う意味で使われていることもあるからです。本文によれば「限りある→限りない」言い換えれば「有限なちっぽけなもの→無限に大きなもの」というわけで〈小→大〉という対比です。したがって④が正解ですね。①は、幸せが「叶わない」が×です。大きく叶うはずですから、正反対、記述に反する誤りです。②では、大小が逆転です。対比混乱の誤りといえるでしょう。③は「望めば望むほど遠ざかる」なんて切なすぎです。だったら最初から望まなきゃよかったよ、て感じになります。〝期待は失望の母である〟というわけですかね。とくかく大きく叶うはずですから記述に反する誤りです。⑤の「別なかたち」では、まず、記述に反する誤りです。さらに〈小→大〉という対比の軸線から外れてしまいますね。こういうのを正しい対比喪失の誤りといいます。しかし、「望みとは別なかたちで実現する幸せ」って、どんなですかね。お誕生日にゲームソフトを希望していたのに、クリスタルガラス製のチェス・セットをもらっちゃったとか、かな。

問２《空欄補充》

こちらも内容的には問１と同じで〈小→大〉、「有限から無限」を生み出す「創造」です。したがって②が正解。「錬金術」という表現もカッコイイ。今どきの小学生なら、将来の夢は錬金術師です、とか海賊です、とかいうのかな。①は「往還」が×。有限に戻ってしまいますよ。対比混乱の誤りです。③も①と似ていますね。「有限にもなれる」が、対比混乱の誤りです。④は「無限」「有限」が正反対です。筆者重視のキーワードと敵役キーワードを取り違えた対比混乱の誤りです。⑤は「無限も有限もない」（どこへ行くんでしょうね）が対比混乱の誤りとも言えますし、「有限から無限」という対比軸という点では、正しい対比喪失の誤りです。

模範解答

問１＝④　問２＝②

復習問題解答

復習問題　解答　第一講

（ア）①　（イ）②　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）①
（カ）⑤　（キ）④　（ク）②　（ケ）③　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）絶対　（イ）普遍　（ウ）退屈　（エ）標準　（オ）経過
（カ）創造　（キ）仮想　（ク）志向　（ケ）貴重　（コ）表象